

都道府県バドミントン協会・7連盟 御中

新年明けましておめでとうございます。

本年もよろしくお願いいたします。

平成 27 年度 本会の活躍した選手に下記の表彰が贈られました。

記

1. 第 65 回日本スポーツ大賞(読売新聞主催)

競技団体別最優秀賞 桃田 賢斗 選手

2. 第 50 回テレビ朝日ビッグスポーツ賞(テレビ朝日主催)

ビッグスポーツ五輪奨励賞 桃田 賢斗 選手 奥原 希望 選手

3. ホワイトベアー賞(デイリースポーツ新聞主催)

桃田 賢斗 選手 奥原 希望 選手

すばらしい活躍で受賞されました。

おめでとうございます。

また、スーパーシリーズファイナルズの記者会見後の新聞記事をお送りします。

TV放送案内

1 月 24 日(日) 11 : 15 ~ 11 : 45

フジテレビ 「未来モンスター」

渡辺勇大選手 出演

メダルの卓球&バドミの丸選手が凱旋

プロ野球選手やサッカー選手と張り合う!!

桃田 野望はド派手生活

バドミントン

バドミントンのスーパーシリーズ・ファイナルで、男女のシングルスでそれぞれ日本人初優勝を果たした桃田賢斗(21)とNTT東日本と奥原希望(のぞみ、20)と日本ユニシスが14日、大会が行われたアラブ首長国連邦のドバイから成田空港に帰国した。

日本人初の快挙を成し遂げた男の野望は大きかった。優勝賞金8万ドル(約968万円)の使い道を聞かれた桃田は「これだけ賞金が入ったら周りに分ける派手な生活をした」とぶち上げ、中身については「夜の生活とか。服も豪華にした

い」と冗談めかすほど口も滑らかだった。もちろん単に自分がい

れ、僕みたいな生活をした

奥原 厳しい戦い「ワクワクする」

「ワクワクする」



金メダルを手に笑顔の桃田賢斗(左)と奥原希望＝成田空港で(川村庸介撮影)

金メダルを取りたい。日本のエースからバドミントン選手へ駆け上がる。(川村庸介)

賞金960万円ゲット「稼げるスポーツ」にジャー化誓う秘田

秘田

バドミントンの年間王者、8連覇を成した、1977年生まれの秘田。バドミントンの年間王者、8連覇を成した、1977年生まれの秘田。バドミントンの年間王者、8連覇を成した、1977年生まれの秘田。

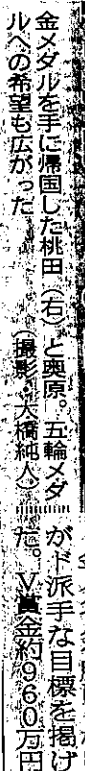
金派手に使って、バドミントンの年間王者、8連覇を成した、1977年生まれの秘田。バドミントンの年間王者、8連覇を成した、1977年生まれの秘田。バドミントンの年間王者、8連覇を成した、1977年生まれの秘田。



秘田(撮影:佐々木)

秘田はバドミントンの年間王者、8連覇を成した、1977年生まれの秘田。バドミントンの年間王者、8連覇を成した、1977年生まれの秘田。バドミントンの年間王者、8連覇を成した、1977年生まれの秘田。

秘田はバドミントンの年間王者、8連覇を成した、1977年生まれの秘田。バドミントンの年間王者、8連覇を成した、1977年生まれの秘田。バドミントンの年間王者、8連覇を成した、1977年生まれの秘田。



桃田ハトリントで
手に入る

いい服買いたい

ガキんちよのあしがれに

ガキんちよのあこがれに

ハンリスなど、金を稼ごうとしない。マイナール競技からの脱却を目指す。マイナースケートの羽生結弦は同学年。強気な発言は、フイギニア並みの人気スポーツにバドミントンを押し上げる狙いもある。

20日に新潟で行われる日本リリクに出場予定。会場に見に来てもらいたい。日本のバドミントン発展へ、桃田が力を尽す。

◆大会3日目から体調が悪く、決勝後は嘔吐（おうと）（おと）していたという奥原希望。一実力をキープしていても意味がない。どんな会場でも力を出せるようにしたい。

桃田・奥原 大舞台で強さ

帰国後、成田空港で金メダルを手に笑顔を見せる桃田(右)と奥原



バドミントン スーパーシリーズ

男女ともに日本勢初V

年間トップ8によるファイナルで、日本勢が男女のシングルスを初めて制した。男子の世界ランキング5位の桃田賢斗(20)と、女子の世界ランキング9位の奥原希望(20)が日本を代表し、同世代2人は、リオデジャネイロ五輪に向けて貴重な経験を積んだ。

13日の決勝で桃田は世界6位のビクター・アクセルセン(デンマーク)、奥原はロンドン五輪銀メダリストの王儀涵(中国)をストリートで破った。桃田は左足に違和感、奥原は風邪気味とベストコンディションではなかったが、「優勝のチャンスは逃したくなかった」と2人。大舞台での勝負強さは共通の武器だ。日本バドミントン協会が年代別のナショナルチームを整備したのに見いだされた。早くから強化合宿や海外遠征を経験。高校生だった2012年には同時に世界ジュニア選手権で優

勝大会を制した最初の日本選手となった。さらに世界トップクラスの選手が集まるスーパーシリーズのファイナルの優勝で、奥原は「五輪のメダルが見えてきた。感触がつかめた」。多くの大会は負けだらけのトップナメント。SSファイナルと五輪だけが総当たりの1次リーグと決勝トーナメントで競うため、大会中に同じ相手と2度戦う可能性がある。今大会で桃田は決勝で戦ったアクセルセン、奥原は世界女王のカーリーナ・マリン(スウェーデン)と2試合し2連勝。桃田は「1回やっただうえで、さらに作戦を立ててうまく戦えた。収穫の多い大会になった。(下バイル清水寿之)

桃田と奥原が14日、成田空港着の航空機で帰国した。ともに来年のリオデジャネイロ五輪出場をめざす。桃田は「決勝は自信に

なっていた。来年もこの勢いのめられる選手になったのは、まあ頑張りたい。奥原はうれしく、これからもう一歩、世界のトップ選手から認められるたい」と話した。

バドミントンSSファイナル

男女単 ダブル優勝

13日までドバイ(アラブ首長国連邦)で開催された、バドミントンのスーパーシリーズ年間上位8人によるファイナルで、男子シングルの桃田賢斗(NTT東日本)と、女子シングルの奥原希望(日本ユニシス)が優勝した。シングルス優勝は男女とも日本勢初で、14日に帰国した2人は記者会見で「勝てたのは自信になる」と、そろって声を弾ませた。

2人は直前に行われた全日本総合選手権を制し、「日本のエース」として臨んだ。桃田は「全日本で優勝した勢いのまま、いい試合運びができた」と語り、奥原も「一試合一試合、一球一球全力でできた」と笑顔を見せた。

桃田は21歳、奥原は20歳で、ともに2020年東京五輪での活躍も期待される。

▽男子シングルス決勝

桃田 2 (21 12) 12 15
ビクター・アクセルセン (デンマーク)

▽女子同

奥原 2 (21 22) 18 20
王儀涵 (中国)

優勝し、帰国後の記者会見で笑顔を見せる奥原(右)と桃田―飯島啓太撮影

る。この一年を振り返り、「この勢いのまま頑張りたい」と桃田。まずは来年のリオデジャネイロ五輪に向け、「本気で勝負して、収穫や反省点が次の東京に生かせる。金メダルを取りたい」と意気込んだ。

奥原にとっても、今季は「(初めは)海外選手に恐れ、日本の強豪が集うスーパーシリーズ(SS)は、3月間12大会が開催される。このうち、5大会はより獲得ポイントの多い「プレミア」

最高レベルの大会で結果

怖心を抱いていたが、差はシーズン。「目の前にあるのはリオ。結果を求めたい」と更なる活躍を誓った。



奥原と桃田 初優勝

Sシリーズ・ファイナル
バドミントン

バドミントンの世界連
盟スーパーシリーズ・フ

ファイナルのシングルスで
優勝した女子の奥原希望
(日本ユニシス)と男子
の桃田賢斗(NTT東日
本)が14日、開催地のア
ラブ首長国連邦から成田

空港に帰国し、奥原は「3日目、ろから体調不
調だった」と話しつつも
「これでリオデジャネイ
ロ五輪のメダルが目標だ
とばかり言える」と喜
びを口にした。

20歳の奥原は鼻声で

原が優勝してブレイクシャ
スパーシリーズ・フ

た。

男子シングルス決勝で
世界選手権3位の桃田は
ビクトル・アクセルセン
(デンマーク)に21-
15、21-12でストレート
勝ちし、初優勝を果たし

ファイナル最終日は13日に
行われ、女子シングルス
決勝で奥原はロンドン五
輪銀メダリストの王儀涵
(中国)を22-20、21-
18で破った。

リオでメダル 高まる期待

女子シングルスで初優勝した奥原—ドパイ

シングルスでアベック優勝
を果たした桃田と奥原は、3
年前の世界ジュニア選手権で
も日本勢初優勝を同時に成し
遂げ、注目された。大きなタ
イトルを得て、来年のリオデ
ジャネイロ五輪のメダル獲得
に期待が高まってきた。

奥原は世界ジュニア以降、
度重なる両膝などのけがで苦
しみ、スーパーシリーズに本
格参戦したのは今季から。今
回は世界選手権2連覇のカロ
リナ・マリン(スペイン)に
2度勝つなど実力を見せつ
けたが、冬のオフ期間で強豪
国がじっくり研究してくるだ
ろ。初めてマークされる立
場立ってなお勝ち続けられ
るかが、新たな課題にな
る。

桃田は今回、現世界王者で
過去4戦全敗の諶龍(中国)
と対戦がなかった。今大会に
出ていない北京、ロンドン両
五輪金メダリストの林丹(中
国)、そのライバルのリー・
チョンウェイ(マレーシア)
は、リオ五輪に照準を合わせ
ている。新星の桃田は五輪で
大ベテラン2人と世界王者の
壁を越えてメダルをつかめる
か。



バド アベックV帰国

バドミントンのスーパーシリーズ・ファイナルのシングルスで共に優勝を果たし帰国した奥原⑤と桃田は、クリスマスツリーと金メダルを手に笑顔を見せた(カメラ・中島 傑)



桃田 賞金派手に使う

バドミントンのスーパーシリーズ・ファイナル(9日、ドバイ)の女子シングルスで初優勝した奥原希望(20)＝日本ユニシス＝同男子優勝の桃田賢斗(21)＝NTT東日本＝ら日本代表が14日、成田空港に帰国した。来年のリオ五輪でのメダル獲得へ進化を約束。桃田は20日の日本リーグ・金沢学院大戦(新潟・佐渡)で奥原は27日の同・岐阜トリッキーパーティーズ戦(沖縄・豊見城)出場にも意欲を示した。

◇スーパーシリーズ・ファイナル最終日(13日)

アラブ首長国連邦・ドバイ
▽男子シングルス決勝

桃田 21-12、15-0 セン(東日本) 1-0 セン(東日本)

▽女子シングルス決勝

奥原 2-21、22-0 王(中国) 2-0

1000万円

奥原に続き、男子初のファイナル制覇を果たした桃田も「全日本も勝って、ファイナルも勝ったことは来年に自信になる」

奥原「リオでメダルを」

日本女子シングルス初のファイナル優勝を手にした奥原は、すでにリオの表彰台を見据えた。スーパーシリーズに本格参戦して一年目のタイトルの「本場にうれいけど、ここで満足したら止まっちゃう。周囲からの期待も大きくなるけど、しっかりメダルを取れるようにこれから準備していきたい」と誓った。

前週の全日本総合から10試合すべてをストレート勝ち。世界ランク1位のカロリナ・マリン(スペイン)にも完勝した

ると満面の笑み。優勝賞金8万円(約1000万円)の使い道について、まだ決めていないとした上で「子供たちにバドミントンでも夢が与えられるように、派手に何か使いたいですね」と語った。

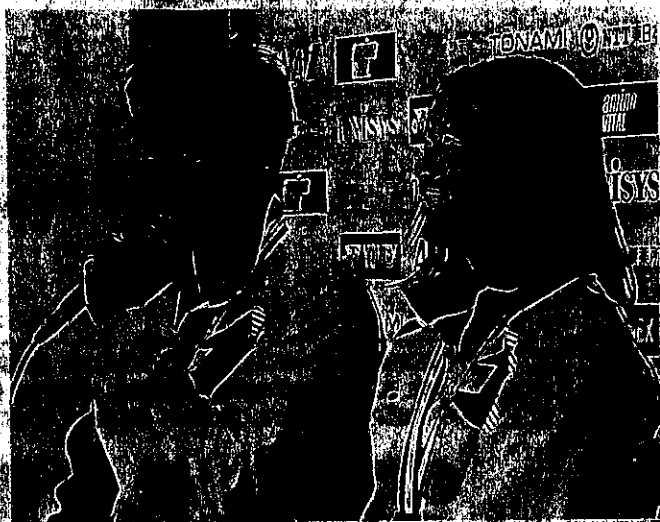
同大会では、五輪2連覇の林丹や世界ランク1位の龍(ともに中国)との対戦はなかった。それだけに「これでトップの選手に対抗できる人として認めてもらえたと思う。リオでも金メダルを取るため、互角に勝負できる力を付けたい」と真の世界王者になることを誓った。

2016年 リオ五輪 2月5日
あと234日
2020年 東京五輪 7月24日
あと1683日

(遠藤 洋之)

2015年(平成27年)12月15日(火曜日)

「リオ本気で金狙う」



リオデジャネイロ首長国連邦から帰国し、記者会見する桃田賢治(右)と奥原希望(成田空港で)

ハイドロポン

桃田・奥原が帰国

若き男女のエースの目に、来夏のリオデジャネイロ五輪のメダルが見える。フービーシリーズ・ファイナルで優勝した男子シングルの桃田賢治(NTT東日本)と女子シングルの奥原希望(のた)と笑みを浮かべた。

21歳の桃田と20歳の奥原は、同僚年。当初、2020年の東京五輪が「本番」と見られていたが、桃田はことごと入りの8月の世界選手権で銅メダルを獲得するなど急成長。「周囲から、5年後の東京五輪で勝負だね」とよく言われるが、リオが本気で勝負だと思っている。金メダルを狙いたい。目を輝かせる。

奥原は11月の香港オーストラリアで好感度をつかみ、今月上旬の全国本拠合を4年ぶりに制した。今大会は途中から体調を崩したものの、5試合すべてストレート勝ち。大会前とは自信が違っている。いまは「リオでメダルをとります」と思い切り言える。胸を張る。

今後は海外勢から研究される。マークが厳しくなる。それでも桃田は「この勢いで頑張りたい」と声を弾ませ、奥原も「認められるのはうれしい。ワクワクする」。まだまだ伸びしろがある男女のエース。リオの舞台が待ち遠しい。(森合正範)



奥原と桃田は金メダルとソリ一を手に満面の笑み

桃田世界賞金960万派手に使う

バドミントンアベック凱旋

夜遊び? 宣言も

バドミントン・スーパーシリーズファイナルの男子



シングルスで初優勝した桃田賢斗(21)NTT東日本が「目に見えるぐらいの派手な生活をした」と喜びを表現した。14日、女子シングルス初優勝の奥原希望(20)らと開催地のドバイから成田空港に帰国。優勝賞金8万(約960万円)の使い道を聞かれると「僕

が派手な生活をして、字どもたちが憧れてくれればいい。見本になりたい」と迷いなく答えた。桃田にはバドミントンを人気がスポーツにしたいという強い思いがある。「この野球、サッカー選手と比べると収入を考えると望みは多い。決断直前の心境を、賞金をめっちゃめっちゃ意識してました」と素直に明かした。憧れのサッポロビール代表のネイマルのような実力も人気も華やかな生活も手にはしたいという。派手な洋服を着て、夜の遊びをした。いすね。どちめ。気たっぷりに笑った。大きな自信も得た。取り組んだフィジカル強化の成果で、戦目の決勝までスタミナが続き「今の方向は間違っていない」と分かった。リオ五輪の金メダル獲得に向けて視界は良好だ。【高橋泉穂】

女子シングルス初優勝の奥原希望(20)は、競技人生の自信になった。リオ五輪まで覚悟をしっかりと持った。戦う。いすね。



帰国し、記者会見する桃田(左)と奥原

奥原・桃田 リオでメダル

「バドファイナル」

18日までに終わったバドミントンのスーパーシリーズファイナル。東京五輪が14日帰国し、成田空港で記者会見した。1次リーグから1ヶ月前も落とさず5戦全勝で勝ち抜いた奥原は「結果的にも内容的にも充実した大会だった」と喜びを表し、同じく5連勝の桃田は「いい試合運びができた」と話した。奥原は来年のリオデジャネイロ五輪に向け「確実にメダル候補になったと思う」と話した。世界選手権で日本の男子シングルス初のメダル(銅)を獲得するなど充実の1年を過ごした桃田も「リオで金メダルを取りたい」と力強く話した。

毎 日 新 聞

(2015年(平成27年)12月15日(火))

日本勢男女とも制覇

シングルス 桃田、奥原初めて

バドミントン スーパーファイナル

【ドバイ(アラブ首長国連邦時事)】バドミントンのスーパーシリーズ年間上位8人によるファイナルは13日、アラブ首長国連邦のドバイで各種目の決勝が行われ、男子シングルスはスの桃田賢斗(NTT東日本)、女子シングルの奥原希望(日本ユニシス)がともに初優勝を果たした。日本選手がファイナルのシングルスで優勝したのは初めて。女子ダブルスは昨年、高橋礼華・松友美佐紀組(日本ユニシス)が制して

スの桃田賢斗(NTT東日本)、女子シングルの奥原希望(日本ユニシス)がともに初優勝を果たした。日本選手がファイナルのシングルスで優勝したのは初めて。女子ダブルスは昨年、高橋礼華・松友美佐紀組(日本ユニシス)が制して

世界ランキング5位の桃田は、同6位のピクトル・アクセルセン(デンマーク)を21-15、21-12で降し、同9位の奥原は、ロンドンの五輪銀メダリストで同8位の王儀涵(中国)を22-20、21-18で破った。